

シカの被害対策

地域で防げるシカの被害



シカの生態と特徴

[生態を知って被害を防ごう]



道路脇の草を食べるシカ

□行動の特徴・身体能力

①植物ならなんでも食べる

草食性の動物で、葉・果実・皮・根など植物であれば大部分のものを食べます。適応性も強く環境によって食べるものを変えることができます。

②高いジャンプ力・強く噛み切る力

ジャンプ力が強く、2 m程度のものなら飛び越えられます。
ネットなどは奥歯で噛み切ります。

□生活や繁殖の特徴

①エサが豊富なら毎年出産

出産は1頭ですが、エサが豊富であれば毎年出産します。メスは2歳になると、ほとんどが性成熟して子供を産めます。

②高い密度

家族を中心としたグループを作り、密度が非常に高くなる場合があります。

③本来は草原の動物

通常は山に生息していますが、本来は草原の動物です。
草の生えた水田やその周辺などはシカが本来、最も好む環境です。

④夜を中心に採食

夜が中心ですが、昼夜を問わず、2～3時間採食し、2～4時間反芻するリズムを繰り返しています。1日に3～4 kgも採食します。



放棄された麦を食べるシカ

シカの農作物被害の特徴



田植え後の稲、麦の新芽や穂、野菜の苗、果樹の樹皮など、何でも食べるシカの被害は農作物全般にわたります。植物質のものなら大抵は食べられるシカは、茶の葉など今まで食べなかったものでも、味を覚えると好んで食べるようになります。



柑橘園の剥皮被害

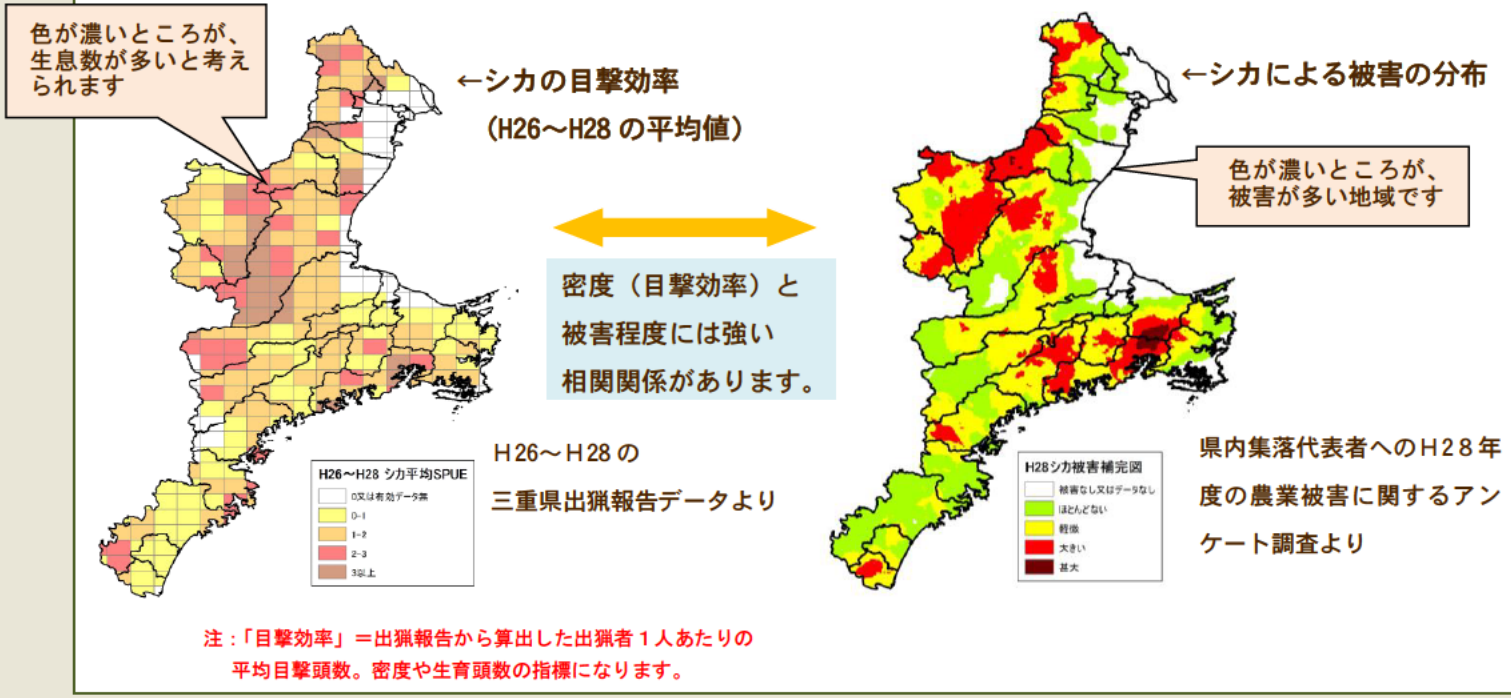


移植後の水稻被害



柑橘の葉を食害するシカ

三重県内のシカの分布や農作物被害の状況



①シカの分布

出猟者の目撃効率から、鈴鹿山脈から大台山系、志摩半島南部と、県内に広く分布していることが分かります。

②シカによる農作物被害の状況

シカの被害は県内およそ700集落で発生しています。目撃効率などから推測される密度が高いと思われる地域は、被害が多い傾向にあります。

密度が高い地域の農地周辺で、集中的に捕獲することが重要です。

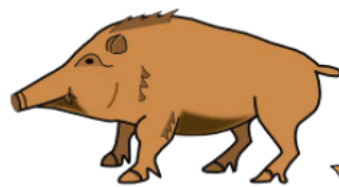
シカとイノシシの足跡、糞の違い



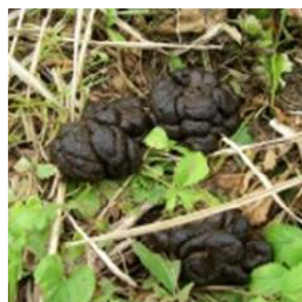
シカ



- 足跡には副蹄の跡が残らないことが多い。
- 糞は粒状



イノシシ



- 足跡に副蹄の跡が残しやすい。
- 糞は塊状



シカの被害対策 [シカを寄せ付けない集落づくりを]

①「無意識の餌付け」をなくす→ヒコバエなど、シカを農地に誘引している「無意識の餌付け」をなくす

②正しく囲う→出来るだけ広範囲に電気柵、ネット、フェンスなどで正しく囲う



③正しく捕獲する→農地に出没する「犯人」のシカを捕獲する

①「無意識の餌付け」をなくす

稲の収穫後のヒコバエ（刈り株からの再生穂）や野菜などの収穫残渣等、集落にはシカを誘引してしまっている無意識の「エサ資源」が沢山あります。特に冬期の畦畔や土手の雑草などはシカの絶好のエサ場になっています。

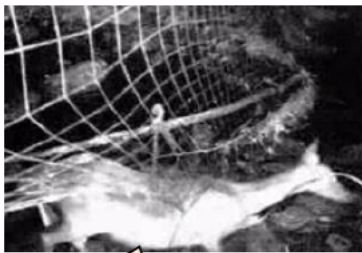
収穫が終わった田にヒコバエが生えていますが、誰も「被害」と認識しないため、電気柵も撤去されています。



夜になると多数のシカがヒコバエを食べに来ています。こうして、水田を「エサ場」と認識するようになっていきます。

②正しく囲う（農地を全面的に囲い、メンテナンスをしっかりと）

正しい囲い方で、出来る限り広範囲に、出来れば集落全体を囲うと効果が発揮できます。特にシカの侵入を防ぐとして設置していても、適切に設置されていない柵が多いのが問題です。下部をしっかりと守る、メンテナンスをしっかりと行う、などの基本的な事が重要です。正しく設置すればシカの被害は防ぐことができます。



下部が守れていないと侵入されます



フェンスの破れ目などから侵入されています。定期的なメンテナンスが重要です。

③正しく捕獲する

農作物被害を与えるシカは、その農地を「エサ場」と覚えている個体です。山の中でシカを捕獲するだけでなく、被害が発生している農地周辺で、その「犯人」を捕獲しなければ被害は減少しません。

檻やワナも使用して、農地に出没するシカを捕獲することが大切です。

また、捕獲効率を高めるためには、柵などの被害対策をしっかりと行ない、その周辺で捕獲することが重要です。

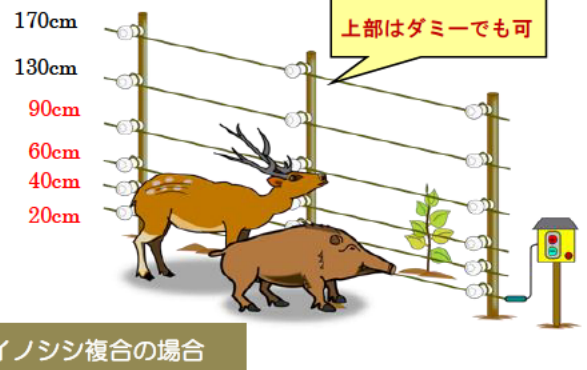
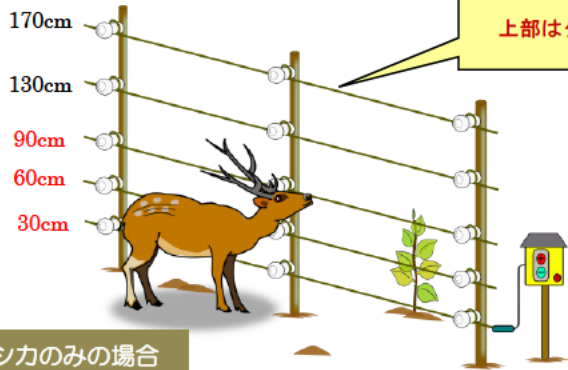
※捕獲については、「箱わな捕獲マニュアル」（三重県農業研究所HPからダウンロード可能）をご参照ください。



シカの被害対策 [柵やネットの基本と事例]

電気柵設置の基本

下部からの侵入を防ぐため、高さに注意しましょう。農地の段差などは特に隙間がしやすいので、しっかりとチェックしましょう



注：電気柵は、適正な設置方法で十分に安全に配慮して設置してください。

基本的な柵について

①金網柵



長所 耐久性が高い

短所 高コスト

注意点

- ・2m以上の高さに
- ・編み目は15cm以下に
- ・メンテナンスでは破れ目や下部の隙間に注意

②ネット柵



長所

- ・比較的 low コスト
- ・設置もしやすい

短所 耐久性が低く破れ目から侵入しやすい

注意点

- ・2m以上の高さに
- ・編み目は10cm以下に
- ・メンテナンスでは破れ目や下部の隙間に注意

③電気柵



長所 設置が容易で低コスト

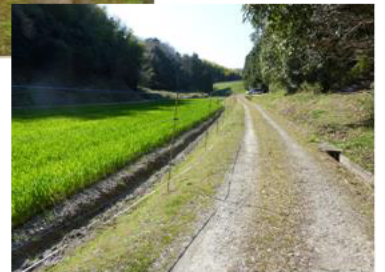
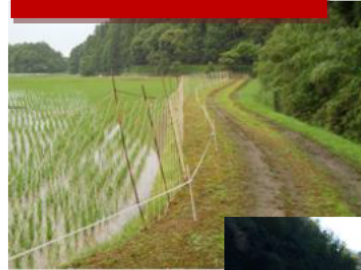
短所 頻りにメンテナンスやチェックが必要

注意点

- ・漏電防止のために草刈りはこまめに
- ・電圧のチェック
- ・高さや張り方などは「電気柵設置の基本」を参照

柵の工夫について

電気線による補強



通常のネットや電気柵の外側にもう1本電気線を設置することで、シカの飛び込みや潜り込みを防ぐ補強の工夫です

作成：三重県農業研究所

TEL 0598(42)6356

<http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/index.htm>

(当資料はHPからもダウンロードできます)

発行：三重県農林水産部獣害対策課

TEL 059(224)2017

